

入会のご案内

彦根景観フォーラムは、まちづくりを楽しむNPOです。
大学教員・建築家・会社員・商店主・公務員などが集まり、
それぞれの知恵と力を合わせて活動しています。

私たちの活動にご支援・ご協力いただける方々のご入会を
お待ちしております。

【年会費】 正会員 6,000 円 フレンド会員 1,000 円

賛助会員 一口 10,000 円 学生会員 0 円

【会費振込先】

滋賀中央信用金庫 彦根営業部 普通 0606419

特定非営利活動法人 彦根景観フォーラム

理事長 濱崎 一志（はまざきかずし）

入 会 申 込 書

ふりがな
お名前

ご住所
〒

電話番号

携帯電話

E-mail

会員種別

☐ 正会員 ☐ 賛助会員()口

☐ フレンド会員 ☐ 学生会員

NPO法人

彦根景観フォーラムとは

◆団体の概要

団体名 特定非営利活動法人 彦根景観フォーラム

代表者 理 事 長 濱 崎 一 志

所在地 〒522-0075

滋賀県彦根市佐和町3番4号

団体設立 平成 14 年（2002 年）8 月

法人設立 平成 16 年（2004 年）8 月

会員数 名誉会員 3 名 正会員 18 名
フレンド会員 21 名 学生会員 0 名
賛助会員 2 団体 （2024.6.1 現在）

◆お問い合わせ

彦根景観フォーラム事務局

TEL 080-1416-5968

Mail hikonekeikan@hotmail.com

URL <http://hikone-bunkaisan.net>

URL <https://asgr-home.studio.site>

Blog <http://hikone-keikan.seesaa.net>

彦根景観フォーラムブログ

🔍 検索 🖱



特定非営利活動法人

彦根景観フォーラム



多賀さとの宿 一圓屋敷 [Japanesque Villa Ichien](http://www.ichienyashiki.jp)

URL <https://www.ichienyashiki.jp>



彦根

NPO法人彦根景観フォーラム 20年の歩み

(2004年～2024年)

発端は日仏景観会議

日仏景観会議は、景観に対する意識の向上・優れた景観の形成を目的に、日本と仏が国際的視野にたって議論する場です。滋賀大に奉迎して開かれた2002年の夏、会場に協力していた山崎彦根景観の要請がありました。

彦根の歴史を知り景観を議論する良い機会だと思っただけで、彦根に来たばかりで勢揃いづくりに不安がありました。滋賀大・南大の学長、知事・市長に相談したところ、バックアップするということになり、意を決して、岡大・南・彦根市・岡工芸館・観光協会・建築士会等有志で実行委員会を組織し準備を進めました。

テーマは「時のデザイン」。2003年9月23日・24日の両日会議を開きました。初日は彦根のまち形成史論とまち歩き、2日目は仏の景観形成の実践解説と参加者同士の意見交換でした。議論を経て、「未来に向けた彦根宣言」を発表しました。

宣言の最後は「市民・行政・専門家・企業等による系統的な実行組織の設立」がありました。実行しなければ宣言を出す意味はありません。この会議の実行委員会が彦根組織に移行して実現すべしとなり、これが会議参加者の集約の意志となったのです。

早速、法人認証を得て、2004年8月に「NPO法人彦根景観フォーラム」が発足しました。以来、景観形成活動に取り組み今年で20年になります。(彦根景観フォーラム名誉理事長 山崎一貴)



花しようぶ通り

街の駅、重伝建、小江戸彦根 時の回廊へ

城下彦根の中心部に位置する花しようぶ通り商店街は2008を超える伝統的商店街もあり城下町特有の風情や町並みも多く残っています。商業エリアの市部外へ移転するドーナツ現象により取り残された商店街となりましたが、1996年より若手商店主を中心とした組織化を機に活発な活動が出来る組織形態となりました。一年間の独立大学とのフィールドワークによる城下町ルネサンスの再生振興を目標に掲げた取り組みとしてふるくもあたらしい心を持つやさしい街づくり「ふるあたらしい街 花しようぶ通り」としました。

1998年中心市街地活性化法によるファースト整備事業の完成後、実践的なコーディネート組織「NPO法人彦根景観フォーラム」との協定による協議室「それぞれの彦根物語」から地域のエキスパートが参画する「LLPひこね街の駅」が組織されました。まちのプラットフォーム「LLP街の駅構想」や市内3大学の学生と共に開催する「アートフェスタ彦根」など数々の自主的・自発的な商店街及び地域振興の促進を行っています。

2013年地域住民の手による歴史の景観を守り伝える組織として「河原町町民美しいまちづくり委員会」を組織し2016年9月25日に伝統的建造物群保存地区に認定を受けました。2024年末には新規及び修復修繕建造物は延べ16件になります。今後は街路環境と共に地域ブランディングの確立に取り組み、JR彦根駅～彦根駅～キヤッセルロード～足軽組屋敷～河原町町民伝統的建造物群保存地区～芹川川の「小江戸彦根 時の回廊」の一翼を担いたいと思います。(LLPひこね街の駅 小村弘弘)



アートフェスタ彦根会 (2024)



ひこね街の駅手元石 (2025)



彦根の森の植物観察会 (2009)



足軽組屋敷特別公開 (2023)



さとの宿・明美 (2024)

一圓屋敷は

「星の駅」から「さとの宿」へ

一圓屋敷のある滋賀県大津市彦根は、彦根市の南東、鈴鹿山系の北側に位置し、人口は約7,000人の山荘です。2008年に一圓屋敷からNPOに組織が変換されました。星敷は、江戸後期の庄屋屋敷の跡を残り、近江の農家の古い建築様式がわかる建物であることから、彦根町のまちづくりに活用できないかということで、模索が始まりました。

はじめの10年は、多賀町有志の「多賀クラブ」によって運営しました。一ヶ月に一度、星敷を公開する「星敷市と集い」をしたり、「彦根の森の植物観察会」や農業レストランを開催しました。この間に、一圓屋敷の登録有形文化財となり、農業レストランは「産地地産のメニューコンテスト」で農林水産大臣賞を受賞しました。本場に高く評価された日でした。

しかし、第160年の建物は、次々という人が壊れることが続きました。小さな修理では限界がきてしまいました。大規模な修理が必要となったことから、「合同会社さとの宿」を設立し、総務省の支援を受け、改修工事を行い、2019年に宿泊施設として再オープンしました。民泊としての運営と「星山自転車さんぽ」というボタリング事業の2本立てでの再出発です。

「星山にたつたずむ庄屋屋敷でゆっくりした時間とおいしい朝食」をうたい文句に今日もがんばっています。

(多賀さとの宿一圓屋敷マネージャー 江尾美子)



多賀さとの宿一圓屋敷 (2019)

足軽組屋敷の保存から文化遺産を活かしたまちづくりへ

2007年、彦根地区に残る「足軽組屋敷・辻番所」の売却の意向が伝わりました。その後市街地による買収を促した「トラスト運動」がきっかけで、彦根市による買収と文化財指定、解体修理が実現しました。住民にも行政にも、足軽組屋敷のまちを大事に活かしていこう・・・という機運が生まれた瞬間でした。

江戸時代からの町割りがそのまま残り、足軽組屋敷も現存する地域ですが、高齢化が進み空き家が増え、防犯などの課題も多く抱えています。この歴史的な文化遺産を活かす、安心して気持ちよく暮らせる魅力的なまちを目指し、2017年、「彦根二丁目まちづくり憲章」が制定されました。

「まちづくり憲章」をもとに、防災や様々なコミュニティ活動、空間問題の取り組みが始まりました。移住希望者を迎入れる体制も整えられ、まちの魅力を感じて移住者も増えてきています。また、防災に関しての地元の熱心な取り組みが認められ、辻番所の空き家を防災広場として整備する工事が彦根市によって進められています。また、2023年には、「まちなみデザインガイド」を作成しました。心地よいまち並みを口説いて、家を建てたり改修したりする場合のヒントとなるような冊子となっています。

最近では、テレビやラジオ、新聞などに取り上げられることが増え、「イケてるまち」の一つになってきていると感じます。

(彦根景観フォーラム 笠原啓史)



辻番所オープニング (2014)



それぞれの彦根物語 (2007)



デザインガイドづくりワークショップ (2023)



辻番所サロン (2008)



旧彦根足軽組屋敷
バーチャル資料館 (2022)